

学校と家庭を結ぶネットワークの活用実践

一校務の情報化, Web による家庭への情報提供, メールの利用一

岐阜大学教育学部附属中学校 教諭 安藤 忠展(ando@crdc.gifu-u.ac.jp)

<http://www.fuzoku.gifu-u.ac.jp/chu/index.html>

1. はじめに

岐阜大学教育学部附属中学校は、大学と専用線（光ファイバー5M）で結ばれており、高速常時通信が可能になっている。校内ネットワークも充実し、サーバー機が7台、コンピュータ室3室、クライアントが240台ほどあり、各普通教室に1台、図書館20台等、学校中でどこでも利用可能であり、生徒は授業中だけでなく休み時間や放課後などに自由にコンピュータを利用している。このような環境を利用した実践をいくつか紹介する。

2. 教師のためのネットワーク・・・校務の情報化

職員一人につき1台のノートパソコンを貸与し、メールアドレスも一人ずつに発行している。これにより、校務の情報化を行っている。

(1) ペーパーレス会議

本校ではペーパーレス会議を実施している。職員は、自分の提案文書を作成し、電子会議システム（イントラパケット）にアップする。会議では、提案者は、プレゼンテーションを利用して、検討事項など必要な部分だけ説明し、すぐ審議に入る。これにより、無駄な時間を省き、必要な審議だけ、行うわけである。

(2) 電子メール、メーリングリスト

教官専用のメーリングリストも構築しており、事前の提案や情報の共有に活用している。全員に連絡する内容や生徒指導上の情報など、情報をオープンにし、交流している。

(3) 成績処理のデジタル化

生徒に配布する通知票などは、データベースソフトを利用して全教科出力している。

3. 生徒のためのネットワーク活用 ～電子学級日誌～

各教室に1台コンピュータがあり、それを活用して、電子学級日誌（キッズウェアシステム）の利用を行っている。ここでは、欠席、遅刻、忌引きなどの出欠状況から、1日の目標・反省、授業の内容、持ち物、授業反省、評価などを記入する。

現在では、各家庭から本校のホームページにアクセスし、キッズウェアのインターネット版により、授業内容、学校の様子などを家から参照できるようになっており、ペーパーレスの「生活ノート」ができる。

4. 家庭と学校の連携のためのWEBの活用

本校では、平成12年9月末より、保護者用メーリングリストを構築し、それ以降、毎日メーリングリストを用いた情報の提供、毎日のホームページの更新を続けている。

(1) 保護者メーリングリスト

これは、各家庭への情報提供をするためのものであり、クラスごとにメーリングリストを構築し、これを全校のメーリングリストへとつなげている。

(2) 毎日のホームページ更新 ～笑顔の電子宅配便～

情報担当が中心となり、2000年9月より毎日ホームページを更新している。行事の様子、各クラスの様子、生徒会活動の様子など、公開した。宿泊を伴う行事では、行事先でホームページを作成し、そこからタイムリーな情報をアップして、保護者からも大変喜ばれた。3年の

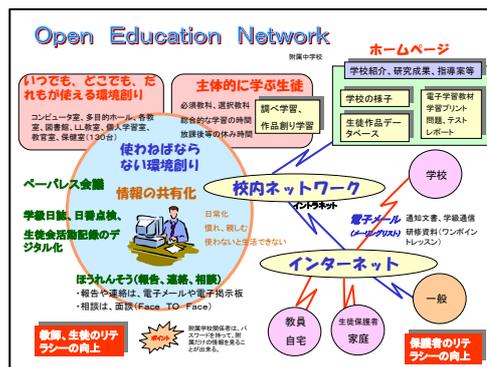


図 附属中学校ネットワーク利用図



図 附属中学校Webページ



図 電子学級日誌

修学旅行は韓国であるので、韓国からホームページをアップし、公開した。

(3) 自学 web 教材

学習のページもあり、自学 Web 教材をはじめ、過去の定期テストなど、いろいろな学習情報を公開している。自学 Web 教材では、インターネットの活用により、授業や家庭、放課後など個人学習ができるように環境を整えている。授業でのワンポイント、学習ソフトウェア、自主学習プリント、授業での活用方法など、様々なデータを整え、学習者が取捨選択し、活用できるようになっている。

(4) 緊急連絡メールシステム

緊急に全家庭に連絡するための手段が、Trmail(web メールシステム)を利用した「緊急連絡用メールシステム」である。保護者用のアドレスには、1つのアドレスにつき、緊急連絡用に、3通のメールアドレス(携帯電話のメールアドレスなど)を設定し、一斉送信機能などを構築した。この「緊急連絡メールシステム」を利用して、全家庭の緊急メールアドレス宛に、一斉に緊急連絡を送信することができる。また、無事に子どもが帰宅したことを保護者が学校宛に返信することによって、学校は無事帰宅の確認にもなる。今年、台風での暴風警報発令に伴う帰宅連絡で、この「緊急メールシステム」を利用し、全家庭へ一斉送信、帰宅確認に利用できた。



図 韓国研修のページ

5. 総合的な学習「心の書」

(1) 「心の書」(毛筆とパソコン文字の融合)

「心の書」は毛筆の『書』と、パソコンの文字による『めざす言葉』を融合させたものである。望ましい心の持ち方の『めざす言葉』(パソコン文字)と、その言葉の心を書いた『書』(毛筆)とを、展示ケースに入れて、自分の部屋に掲げ、自分の心の励ましになる作品創りを行っていく。この『心の書創り』は、生徒自身の手で自ら“心の糧”になるものを製作し、自分自身の自覚によって、自分を高めていく学習を可能にするものとして[総合的な学習]に位置付けた。

(2) 作品製作の流れ

生徒はまず、本校ホームページの「心の書創り」(メディアプレイヤーを利用した動画データベース)の手引書を参考に、一人一人が主体的に、『書』を書く。そして、分からない時は、テレビ電話で自宅におられる関谷義道先生(ボランティアの書家の先生)にアドバイスを頂くのである。PowerPoint を使い、自分の心を表す、文面とそのレイアウトを考えることになる。文字だけでなく、背景や挿絵、レイアウトなどいかに自分の気持ちを表すようにするのか、創造的で楽しい学習である。作成した『書』と『めざす言葉』による「心の書」作品は、裏打ちし、作品ケースに入れ、デジタルカメラで撮影する。その写真をデータベースとして登録する。その作品に対して、本人の感想と、生徒相互の評価を行う。さらに、Web上に登録し、自宅からも閲覧して保護者がコメントを記入できるように工夫されている。



図 心の書 作成の様子

6. 最後に

インターネットの活用だけでなく、それに伴う校内ネットワーク、学校間ネットワークを活用し、実践している最中である。今後も、道具、ツールとしてのネットワークの活用をより一層深めていきたい。

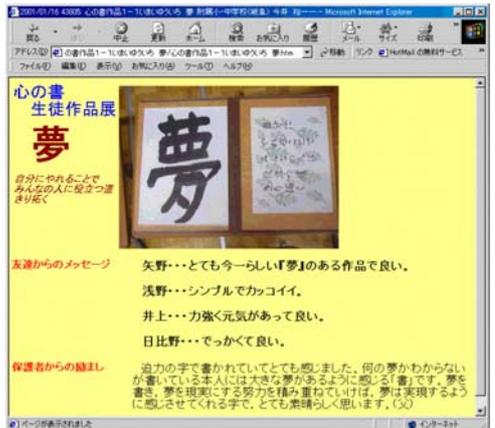


図 心の書